

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	ゆめの園みらいず大宮 児童発達支援・放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43人	(回答者数) 38人
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の作成と保護者との協働体制 保護者アンケートにおいて、個別支援計画の作成やモニタリングに関する満足度が非常に高く(質問7で38名全員が「はい」と回答)、保護者様から「毎回丁寧にモニタリングをして頂いています」「細やかに設定していただき、目標も分かりやすく、本人が理解出来るように公共の場での暗黙のルールを教えていただいたり、とても助かります」との評価をいただいております。この強みをさらに発展させ、保護者様との協働による支援体制を一層充実させることが期待されます。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の定期的な個別面談を実施し、保護者様のニーズや子育ての悩みに丁寧に対応 ・支援会議を通じて、児童発達支援管理責任者だけでなく、支援に関わる全職員が共通理解のもとで計画を検討 ・お子様本人にも分かりやすい目標設定を心がけ、社会生活に必要なスキル(公共の場でのルール等)を具体的に支援 ・日々の支援記録を徹底的に作成し、モニタリング時や支援の振り返りで定期的に見直しを実施 ・保護者様との日常的な情報共有(連絡帳、送迎時の対話)を大切にし、お子様の健康状態や発達状況について共通理解を深める取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングや面談の内容をより深化させ、保護者様の潜在的なニーズも汲み取るよう、職員のコミュニケーションスキル向上を図る研修を実施 ・個別支援計画の目標達成度を可視化するツールやフォーマットを検討し、保護者様と成長を共に喜び合える仕組みづくりを推進 ・必要に応じて担当者会議への参加や学校・相談支援事業所との連携をさらに強化し、多角的な視点からお子様を支える体制を構築
2	多様で魅力的な活動プログラムの提供 保護者様から「工作、調理、ダンス、書き方教室、ウォーキング、音楽など、将来の余暇活動に繋がる様々な取り組みが毎月あり、とてもありがたいです」「いつも楽しく参加させていただいているようです」との高い評価をいただいております。お子様が「前の日から楽しみにして通っています」「ゆめのえん行く!と言って玄関に座り込み楽しみにしています」という声からも、活動プログラムの魅力が事業所の大きな強みとなっています。この強みを維持しつつ、さらなる多様性と柔軟性を持たせることが期待されます。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員が毎月活動案を提出し、フロアリーダーを中心にチームで立案する体制を構築 ・季節や行事に合わせたプログラム、外出プログラムを組み合わせ、活動内容が固定化しないよう工夫 ・静の活動と動の活動で部屋を使い分け、お子様の状態や活動内容に応じた環境設定を実施 ・個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、一人ひとりの特性に応じた支援を提供 ・「4つの基本活動」を複数組み合わせた支援を実施し、放課後等デイサービスガイドラインに沿った質の高いプログラムを展開 ・お子様の特性を丁寧に理解し、一人ひとりに応じた専門的な支援を提供 ・感情の揺れやトラブル時にも、お子様が理解できるように優しく丁寧に寄り添った対応を徹底 ・朝礼・終礼での職員間の情報共有を徹底し、全スタッフがお子様の状態を把握したうえでチームで連携して支援 ・1on1で管理者が職員の意見や悩みを聞く体制を整え、職員のメンタルヘルスや支援の質の向上を図る ・外部研修(ジョブメドレー)や法人内研修等、職員の資質向上のための研修機会を確保 ・毎月不適切ケアアンケートを実施し、虐待防止や適切な支援の提供を組織的に徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様からのご意見「活動プログラムを曜日固定ではなく、同じ曜日でも色々な活動ができるようにしていただけるとありがたいです」を踏まえ、平日の曜日固定プログラムについて柔軟なスケジュール調整を検討 ・お子様の興味・関心の変化や新たなニーズに応じて、定期的にプログラム内容を見直し、より多様な余暇活動の選択肢を提供 ・地域資源の活用や外部講師の招聘など、事業所外の資源も取り入れた活動の充実を図る
3	温かく共感的な職員対応と信頼関係の構築 保護者様から「子供がイライラした時などに起きるトラブル等にも、理解出来るように優しく接していただき、ありがとうございます。子供も、とても信頼させてもらっている様子です」「ささいな怪我でも本人の気持ちが済むような温かい対応をしていただき恐縮です」「思春期で崩れる事が多いですが丁寧に对应して頂いてありがとうございます」との評価をいただいております。職員の共感的で温かい対応が事業所の大きな強みとなっています。この信頼関係を基盤として、さらに専門性の高い支援を提供することが期待されます。	<ul style="list-style-type: none"> ・感情の揺れやトラブル時にも、お子様が理解できるように優しく丁寧に寄り添った対応を徹底 ・朝礼・終礼での職員間の情報共有を徹底し、全スタッフがお子様の状態を把握したうえでチームで連携して支援 ・1on1で管理者が職員の意見や悩みを聞く体制を整え、職員のメンタルヘルスや支援の質の向上を図る ・外部研修(ジョブメドレー)や法人内研修等、職員の資質向上のための研修機会を確保 ・毎月不適切ケアアンケートを実施し、虐待防止や適切な支援の提供を組織的に徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期特有の課題(感情のコントロール、対人関係の悩み等)に対応できる専門的な知識・技術を習得するための研修を継続的に実施 ・小さな事故や怪我の際の対応マニュアルをさらに充実させ、保護者様への迅速な連絡と詳細な状況説明の体制を強化 ・保護者様が安心して相談できる雰囲気づくりをさらに推進し、子育ての悩みに対する助言や家族支援の質を向上 ・職員間のコミュニケーションをさらに活性化させ、お子様に関する気づきや支援のアイデアを共有しやすい組織文化を醸成
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等

1	<p>家族支援プログラムの体制整備と情報提供の充実</p> <p>保護者アンケートの質問14「家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか」において、「はい」が13名(約34%)と他の項目に比べて低く、「わからない」が16名(約42%)と最も多い結果となっています。また、事業所自己評価においても「ペアレント・トレーニング等、ご家族様等が参加できる機会の設定や、情報提供の体制作り」が課題として挙げられており、家族の対応力向上を図る観点からの支援が十分に実施・周知できていない状況です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムが体系的に実施されていない ・保護者向け研修会や学習会の開催頻度が少なく、特に土日祝日のみ利用されている保護者様への情報が届きにくい ・現在実施しているイベント(運動会、ダンス発表会等)は保護者同士の交流機会にはなっているが、家族の対応力向上を目的とした専門的なプログラムとは位置づけられていない ・家族支援に関する情報提供の方法や周知の仕方が十分でなく、保護者様に取り組み内容が伝わっていない ・保護者会等のニーズ把握が十分でなく、保護者様が求める支援内容と事業所の提供内容にギャップがある可能性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレント・トレーニングや保護者向け勉強会を年間計画に位置づけ、定期的を実施する体制を構築(年2~3回程度から開始) ・子育てに関する情報提供を、お便りやホームページ、SNS等を活用して定期的に発信し、家庭でも活用できる具体的な支援方法や関わり方のヒントを提供 ・土日祝日のみ利用の保護者様にも参加しやすい日程設定や、オンライン開催等の工夫により、より多くの保護者様が参加できる機会を創出 ・保護者アンケート等で家族支援に関するニーズを詳細に把握し、保護者様が本当に必要としている内容のプログラムを企画・実施 ・外部講師の招聘や地域資源の活用により、専門性の高い家族支援プログラムを提供 ・保護者会等の開催についても、必要性や希望を定期的に確認し、ニーズに応じて柔軟に実施
2	<p>地域との関係機関との連携体制の強化</p> <p>事業所自己評価において、学校との直接的な情報共有(質問28)、就学前施設との情報共有(質問29)、卒業後の移行先への情報提供(質問30)、地域の児童発達支援センターとの連携(質問31)など、複数の項目で課題が挙げられています。特に「学校と直接の情報共有が必要」「地域の児童発達支援センターと連携を取っていない」「他事業所への移行時は先方からの申し出がない限り情報伝達を特に行っていない」など、組織的・計画的な連携体制が十分に構築されていない状況です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との情報共有が保護者経由になっており、年間計画や行事予定等の直接的な情報交換ができていない ・就学前に利用していた施設との情報共有が、同法人の事業所以外では十分に行われていない ・卒業後の移行支援において、積極的な情報提供の仕組みが整備されておらず、受け身の対応になっている ・地域の児童発達支援センターとのネットワークが構築されておらず、スーパーバイズや助言を受ける機会がない ・放課後児童クラブや児童館との組織的な交流機会がなく、公園での偶発的な交流のみにとどまっている ・連携に関する明確な方針やマニュアルが整備されていない、または職員間で共有されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との定期的な情報交換の機会を設定し、年間計画や行事予定の共有、送迎時の連絡調整等をスムーズに行える関係性を構築 ・新規利用時に、就学前に利用していた施設への情報提供依頼や情報共有の同意を保護者から得る仕組みを整備 ・卒業を控えたお子様については、早期に移行支援計画を立て、保護者の同意のもと移行先事業所へ積極的に情報提供を行う体制を構築 ・地域の児童発達支援センターとの連携窓口を開設し、定期的な情報交換やスーパーバイズを受ける機会を設定 ・放課後児童クラブや児童館との組織的な交流プログラムを企画し、地域の他のお子様との交流機会を計画的に創出 ・関係機関との連携に関するマニュアルを作成し、職員間で連携の重要性や具体的な手順を共有 ・担当者会議への参加を積極的に行い、多職種連携による包括的な支援体制を強化
3	<p>非常時対応に関する保護者への周知と理解の促進</p> <p>保護者アンケートの質問23「事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか」において、「わからない」が10名(約26%)、質問24「非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか」において「わからない」が12名(約32%)と、他の項目に比べて「わからない」の割合が高くなっています。事業所自己評価では各種マニュアルの策定や訓練の実施は行われているものの、保護者様への周知が十分に届いていない状況です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルの策定や避難訓練等は実施しているが、その内容や実施状況について保護者様への情報発信が不足している ・契約時にマニュアルや安全計画について説明しているものの、その後の継続的な周知や情報更新が十分に行われていない ・避難訓練等の実施後に、訓練内容や子どもたちの様子を保護者様に報告する仕組みが整っていない ・土日祝日のみ利用の保護者様など、平日に実施される訓練の情報が届きにくい保護者層への配慮が不足 ・お便りやホームページ、SNS等での発信内容に、非常時対応に関する情報が含まれていない、または目立ちにくい ・保護者様が「わからない」と感じる理由(情報の不足、理解のしづらさ等)を把握できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアル(事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応等)の概要版を作成し、保護者様に配布またはホームページで公開 ・避難訓練や防災訓練を実施した際は、実施内容、子どもたちの様子、訓練から得られた気づきや改善点等をお便りやSNS等で速やかに報告 ・年間の訓練計画を保護者様に事前に周知し、事業所の安全管理への取り組みを可視化 ・契約時だけでなく、年度初めや定期的な面談時に安全計画や非常時対応について再度説明し、保護者様の理解を深める ・保護者向けアンケートで非常時対応に関する情報提供のニーズや理解度を確認し、必要に応じて説明会や勉強会を開催 ・HUGでの安全計画書等の公表に加え、より分かりやすい形(図解、Q&A形式等)での情報提供を工夫 ・土日祝日のみ利用の保護者様にも情報が確実に届くよう、複数の媒体(紙媒体、メール、SNS等)を活用した周知方法を検討

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果（放課後等デイサービス）

事業所名 ゆめの園みらいず大宮 児童発達支援・放課後等デイサービス

公表日 2026/2/25

利用児童数

43人

回収数

38人

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	36	1		1		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	29	7		2		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	35	1		2		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	33	2		3		
適切な 支援 の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	36	2			・お世話になっています。 子供の特性をご理解いただいでいて、助かります。	引き続き、お子様一人ひとりの特性を丁寧に理解し、個性を大切にされた専門的な支援を提供してまいります。職員間での情報共有を徹底し、全スタッフが各お客様の特性に応じた適切な関わりができるよう努めます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	36			2		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	38				・毎回丁寧にモニタリングをして頂いています。個別支援計画も保護者の話とデイでの子供の様子を取り入れて作成して頂いています。 ・細やかに設定していただき、目標も分かりやすく、本人が理解出来るように公共の場での暗黙のルールを教えていただいたり、とても助かります。	今後もモニタリングを丁寧に実施し、保護者様のご意見とお子様の事業所での様子の両面から、客観的で具体的な個別支援計画を作成してまいります。お子様ご本人にも分かりやすい目標設定を心がけ、社会生活に必要なスキルの習得を支援します。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	36	1		1	・子供の事で、面談で相談をさせていただき、目標を決めさせていただいたり、アドバイスをいただいたり、とても助かります。 ありがとうございます。	保護者様との面談を大切に、お子様の成長や課題について共に考え、適切な目標設定ができるよう今後も丁寧に対応してまいります。本人支援・家族支援・移行支援の観点から、包括的な支援内容を設定します。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	38					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	33	5			・工作、調理、ダンス、書き方教室、ウォーキング、音楽など、将来の余暇活動に繋がる様々な取り組みが毎月あり、とてもありがたいです。 ・いつも楽しく参加させていただいているようです。 ・楽しみにしている様子です。 ・活動プログラムを曜日固定ではなく、同じ曜日でも色々な活動ができるようにしていただけるとありがたいです。	今後もご利用者様に楽しんでいただけるような多様な活動プログラムを企画してまいります。また、曜日固定のプログラムについては、同じ曜日でも様々な活動を体験できるよう、プログラムの配置を工夫し、より柔軟なスケジュール調整を検討します。

11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	11	6	4	17	・ゆめハビフェス等で交流して頂いています。	引き続き、ゆめハビフェスなどのイベントを通じて、地域の方々や他のお子様との交流機会を設けてまいります。今後も地域との繋がりを大切にし、お子様の社会性を育む機会を提供します。
12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	38					
13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	38				・分かりやすくご提示をいただき、ありがとうございます。	今後も個別支援計画の説明は、保護者様に分かりやすく丁寧に行ってまいります。ご不明な点があればいつでもお気軽にお尋ねいただけるよう、相談しやすい雰囲気づくりに努めます。
14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	8	1	16	・土日祝日のみの利用の為わかりません。 ・ダンスの発表会で、保護者の方と交流が出来ました。	現在実施しているイベントについて、土日祝日のみご利用の保護者様にも情報が届くよう、お便りやホームページ等での周知方法を工夫します。ダンス発表会などのイベントを通じた保護者同士の交流の場も継続して提供します。
15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	37	1			・普段の様子のフィードバックや、保護者から相談も丁寧に対応頂いています。	引き続き、お子様の日々の様子を保護者様と丁寧共有し、健康状態や発達の状況について共通理解を深められるよう努めます。連絡帳やお迎え時の対話を大切にし、双方向のコミュニケーションを継続します。
16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	36	2			・お忙しい中、面談をしていただきありがとうございます。 安心してお話をさせていただきます。	保護者様が安心してお話しいただける雰囲気を大切にし、定期的な面談を継続してまいります。子育てに関する悩みや不安に寄り添い、適切な助言ができるよう職員の専門性向上にも努めます。
17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	34	3		1	・いつもお世話になり、ありがとうございます。 毎回、親切に接していただいていると思います。	今後も保護者様に寄り添い、共感的な姿勢で支援を行ってまいります。職員一人ひとりが親切で温かみのある対応を心がけ、信頼関係を築けるよう努めます。
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	5	9	20	・合同運動会やダンス発表会などで保護者同士が顔を合わせることができるとは良かったです。 ・特に必要はないと思っております。 ・土日祝日の利用の為わかりません。 ・運動会や、ダンス発表会など。兄弟も楽しみにしています。	運動会やダンス発表会などのイベントは、保護者同士の交流やきょうだいも楽しめる機会として好評をいただいているため、継続して実施します。保護者会等のニーズについては、アンケート等で定期的に把握し、必要に応じて柔軟に対応します。
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	32	4		2	・昨年も、通学のことでご相談をさせていただいた際、とても迅速で親切に対応をさせていただいたと思います。	今後も保護者様からのご相談や申入れに対して、迅速かつ丁寧に対応してまいります。相談窓口の周知を徹底し、いつでも安心してご相談いただける体制を維持します。
20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	37			1	・子供がイライラした時などに起きるトラブル等にも、理解出来るように優しく接していただき、ありがとうございます。 子供も、とても信頼させていただいている様子です。	お子様の感情の揺れやトラブル時にも、本人が理解できるよう優しく丁寧に関わり、信頼関係を大切にした支援を継続します。保護者様との情報伝達も丁寧に行い、お子様の状態を共有しながら適切な支援につなげます。

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	35		1	2	・とても丁寧に発信されています。	引き続き、お便りやホームページ、SNS等を活用し、活動内容や行事予定、事業所の取り組みについて分かりやすく丁寧に発信してまいります。保護者様が必要な情報にアクセスしやすい環境を整えます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	36	1		1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	26	2		10		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	24	2		12		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	31	2		5		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	33			5	・ささいな怪我でも本人の気持ちが済むような温かい対応をしていただき恐縮です。 ・今のところ事故はありません。 ・小さな出来事でも、迅速で細やかなご配慮をいただき、ありがとうございます。	今後も事故や怪我が発生した際は、お子様の気持ちに寄り添った温かい対応を心がけるとともに、保護者様への迅速な連絡と詳細な状況説明を徹底します。小さな出来事でも丁寧に対応し、安全管理に努めます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	38				・とても楽しみにしている様子です。	お子様が安心して楽しく通所できる環境づくりを今後も継続します。一人ひとりが「ここに来たい」と思える居場所となるよう、温かく安全な環境を提供します。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	37			1	・前の日から楽しみにして通っています。 ・子供から、逐一話した内容は聞いてはいませんが、お友達や職員様とお話をさせていただいたり、とても楽しみな様子です。	お子様が毎回楽しみにして通所してくださっている様子を大変嬉しく思います。今後も魅力的な活動プログラムと温かい人間関係を大切に、お子様にとって楽しい場所であり続けられるよう努めます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	35	3			・ゆめの園に行く日は、自ら朝早くから準備をして『ゆめのえん行く！』と言って玄関に座り込み楽しみにしています。 ・利用させていただきいつも感謝しております。 今後よろしく願っています。 ・活動内容も職員さんも大好きです。18歳で卒業するのが寂しいです。 ・送迎など柔軟に対応して頂き、大変助かっております。 ・子供の特性にあった支援をして頂いています。思春期で崩れる事が多いですが丁寧に対応して頂いてありがとうございます。 ・いつも細やかなご支援をいただき、ありがとうございます。 これからどうぞよろしくお願いいたします。	温かいお言葉をいただき、職員一同大変励みになります。お子様が自ら楽しみに通所していただき、活動や職員を大好きと言ってくれたことを何よりも嬉しく思います。今後も一人ひとりの特性に応じた丁寧な支援を継続し、思春期特有の課題にも寄り添いながら、卒業まで充実した時間を過ごしていただけるよう努めます。送迎等の柔軟な対応も引き続き行い、ご家族の負担軽減にも配慮してまいります。保護者様との信頼関係を大切に、共にお子様の成長を支えてまいります。

公表

事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名		ゆめの園みらいず大宮 児童発達支援・放課後等デイサービス		公表日 2026/2/25		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	・定員10名でパーティションで部屋を分けている ・利用者一人ひとりに机を設置し個別スペースを確保 ・机のある部屋とない部屋で使い分け、大きな事故なく過ごしている	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	・シフト表で配置を見える化する事で、職員は把握できるようになっている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	・トイレで男女の絵カードや色で区別 ・時計はデジタルとアナログ両方を設置 ・デイルーム入口に階段とスロープ両方設置	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	・活動ごとで部屋を分けている ・静の部屋、動の部屋で区別 ・こまめに換気、空気清浄機を使用して清潔感を保っている	・水道が時々汚れている(利用者を使用する部分のため改善必要)
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	・パーティションで部屋を分けている ・気持ちが不安定な利用者や宿題に集中したい利用者に相談室を個別提供 ・クールダウン等の目的で個別の部屋に誘導	
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	0		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	・1on1で管理者が意見や悩みを聞く体制がある	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1		第三者による外部評価は行っていない。将来的に実施する事を検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	・ジョブメドレーの受講や外部研修に参加 ・法人内研修など学ぶ機会が多くある	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	・HUGにて公開している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	・支援会議を実施している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0		

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	・個別支援計画書に記載している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	・活動案を職員全員が毎月出している ・毎月の行事を職員全員で案を出し、組み合わせている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	・フロアリーダーを中心に活動を考えることができる ・季節や行事にあったプログラム、外出プログラムを提供 ・当日のFLを中心に活動内容を考えている	・平日は曜日によって活動プログラムを固定しているため、利用者に合わせてプログラムをおおうとすると内容が偏る。固定しなくてもいいのではないかと
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	・朝礼にて職員間で情報を共有 ・連絡事項等を確認	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	・終礼にて職員間で情報を共有し記録に残している ・議事録を作成	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	・支援記録の作成 ・モニタリング時を含めて、支援の振り返りなどの場でも定期的に見返して使用している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	・個別支援会議を実施している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	8	0	・個別支援計画書に記載している。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	・個人の特性に合わせた絵カードがデイルームに常備されている		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	・管理者兼児発官が出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	・必要があった際に相談支援や学校と情報共有を行っている ・必要に応じて担当者会議に出席	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	1		・保護者から下校時刻等の確認を行っている（学校と直接の情報共有が必要）
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	2		・児童発達支援から通われている方は情報があるが、その他の方は家族からの情報になっている
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2		・同じ法人内に移行する際は職員間で情報を伝えているが、他事業所の場合は先方からの申し出があった場合や、ご家族から求められる限り、情報伝達は特に行っていない
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	3		・地域の児童発達支援センターと連携を取っていない
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	2	・近くの公園へ行っている ・ゆめはびフェス（事業所のイベント）に地域のお子様も来ていただいた ・公園で遊んでいた他のこどもと交流することができた	・組織的な交流機会がない（公園での偶発的交流のみ）
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	3	・管理者兼児発官が、部会の部会長を行っている。 ・協議会主催の施設見学会の企画や参加	

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2		・ペアレント・トレーニング等、ご家族様等が参加できる機会の設定や、情報提供の体制作り
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	・契約時にお伝えしている	
保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	・面談時に概要の説明を実施。その後変更がある場合は、文章などで説明を実施。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	・年2回個別面談を実施。 ・必要に応じて担当者会議に参加している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	8	0	・法人内他事業所との合同運動会や、地域交流祭り等で交流していただいている。	・回数は少ないと思うため、必要な場合は回数を増やしてもいい
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	・HUG、法人公式Instagram、YouTubeチャンネルなども活用して発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	・契約時に同意書等をとっている。 ・毎年、SNS等への写真の掲載や他者への譲渡の有無などを同意書形式で確認している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	0	・法人内事業所合同のお祭りや、さいたま市主催の市民のつどい等に参加している。	
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	
47		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0		
48		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	・毎年、個人調査票にて確認している。	
49		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	3	・医師の指示書が出ている方はいないものの、食物アレルギーの有無の確認は行っている。	
50		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0		
51		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	・契約時の説明と、HUGでの安全計画書等の公表と周知を実施	
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	・法人内の放デイ事業所のヒヤリハットについても共有し、注意喚起を行っている。	
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	・外部研修（ジョブメドレー）への参加 ・毎月不適切ケアアンケートを実施	

54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等サービス計画に記載しているか。	8	0	・現在、身体拘束は行っていない	
----	--	---	---	-----------------	--

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	ゆめの園みらいず大宮 児童発達支援・放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数) 1人
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別性を重視した丁寧な支援と保護者との密な連携 保護者アンケートにおいて、全29項目中28項目で「はい」の回答をいただいております。特に個別支援計画の作成(質問7)、支援内容の説明(質問13)、日頃の状況共有(質問15)、定期的な面談(質問16)、共感的な支援(質問17)など、保護者との連携や個別支援に関する項目で高い評価を得ています。児童発達支援という小規模で丁寧な療育環境を活かし、一人ひとりのお子様の発達段階やニーズに応じたきめ細やかな支援を提供している点が事業所の大きな強みとなっています。この強みをさらに発展させ、より専門性の高い個別支援体制を構築することが期待されます。	<ul style="list-style-type: none"> ・お子様の状況をよく理解した児童発達支援管理責任者や職員が、保護者様のニーズや課題を客観的に分析し、個別支援計画を作成 ・個別支援計画作成時には、支援に関わる全職員が共通理解のもとで検討し、お子様の最善の利益を考慮 ・日頃からお子様の状況を保護者様と丁寧に伝え合い、健康状態や発達の状況について共通理解を深める取り組みを徹底 ・定期的な面談を実施し、子育ての悩みに適切に応じ、必要な助言と支援を提供 ・保護者様からの質問や相談があった際に、迅速かつ丁寧に対応する体制を整備 ・お子様や保護者様との意思疎通や情報伝達のための配慮を常に心がけ、共感的な姿勢で支援を実施 ・定期的なモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適時適切に計画を更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化されたアセスメントツール(フォーマルアセスメント)と日々の行動観察(インフォーマルアセスメント)を組み合わせ、より客観的で多角的な評価体制を強化 ・保護者様への情報提供をさらに充実させ、家庭での関わり方や発達を促す遊びの提案など、具体的な子育て支援情報を定期的に発信 ・職員の専門性向上のため、発達支援や家族支援に関する研修機会をさらに増やし、最新の知見を支援に反映 ・保護者様との面談内容を記録・分析し、ニーズの変化や新たな課題を早期に把握できる仕組みを構築 ・お子様の発達の様子を写真や動画等も活用しながら保護者様と共有し、成長の喜びを共に感じられる機会を増やす
2	柔軟で多様な活動プログラムと環境設定の工夫 事業所自己評価において、活動スペースを「机がある部屋」と「マット等を置いて身体を動かす部屋」に分け、静の活動と動の活動で使い分けている点、相談室を個別スペースとして活用している点など、お子様の状態や活動内容に応じた柔軟な環境設定を行っています。また、活動プログラムの立案を職員全員が参加するチーム体制で行い、その日のフロアリーダーを中心に当日の状況に応じて活動内容を調整できる体制を整えています。この柔軟性と多様性を活かし、さらに個々のお子様の興味・関心や発達段階に応じた活動を提供することが期待されます。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆっくり休みたい利用者」と「身体を動かしたい利用者」それぞれの希望を満たすことができる空間設定 ・気分が高まってしまったり宿題をしないお子様など、必要に応じて相談室を個別で提供し、一人ひとりの状態に合わせた環境を用意 ・パーティションで部屋を分け、クールダウン等の目的で個別の部屋に誘導できる体制 ・活動案を職員全員が毎月提出し、多様なアイデアを組み合わせてプログラムを企画 ・その日のフロアリーダーを中心に、お子様の当日の状態や天候等に応じて柔軟に活動内容を調整 ・個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、お子様の状況に応じた支援を提供 ・公園へ行き外活動を行う等、室内だけでなく地域の環境資源も活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食スペースについて、より「食べるスペース」と感じてもらえる環境整備を進め、食事を楽しむ雰囲気づくりを工夫 ・活動プログラムの固定化を防ぐため、季節や行事に応じたプログラム、お子様の興味・関心に基づいたテーマ性のある活動をさらに充実 ・感覚統合やSST(ソーシャルスキルトレーニング)など、専門的な支援プログラムの導入を検討し、発達支援の質を向上 ・お子様一人ひとりの「好き」「得意」を把握し、個別の興味・関心に基づいた活動の選択肢を増やす ・活動後の振り返りを丁寧にを行い、お子様の反応や成長の様子を記録・分析し、次回の活動計画に反映させる仕組みを強化
3	チーム体制による支援の質の確保と職員間の情報共有 事業所自己評価において、朝礼・終礼での職員間の情報共有、シフト表による職員配置の見える化、支援記録の徹底とモニタリングでの活用など、チームで連携して支援を行う体制が整備されています。支援開始前後の打ち合わせを必ず実施し、その日の支援内容や役割分担を確認し、気づいた点を記録に残して共有する仕組みが機能しています。このチーム体制をさらに強化し、職員一人ひとりの専門性を高めながら、組織として一貫性のある質の高い支援を提供することが期待されます。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼で職員間の情報を共有し、連絡事項や当日の支援内容、役割分担を確認 ・終礼で支援の振り返りを行い、気づいた点を共有し議事録として記録に残す ・シフト表で職員配置の見える化し、職員が把握できるようにする ・日々の支援記録を徹底的に作成し、モニタリング時や支援の振り返りで定期的に見直し活用 ・個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が一貫して行われる体制 ・業務改善のためのPDCAサイクルに広く職員が参画し、保護者向け評価表や職員の意見を把握して業務改善につなげる仕組み ・職員の資質向上のため、研修を受講する機会や法人内研修を開催する機会を確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の情報共有をさらに深化させ、お子様の小さな変化や成長の兆し、支援の工夫やアイデアを共有しやすい組織文化を醸成 ・ケース検討会や事例研修を定期的に行い、困難ケースへの対応力や専門的な支援スキルを組織全体で向上 ・外部の専門家(作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士等)からのスーパーバイズや助言を受ける機会を設け、支援の質をさらに高める ・職員一人ひとりの得意分野や専門性を活かした役割分担を明確化し、チームとしての総合力を向上 ・支援記録のフォーマットや記載内容を定期的に見直し、より効果的な情報共有と支援の検証・改善につながる仕組みを構築 ・1on1等の個別面談を活用し、職員の悩みや意見を丁寧に聞き取り、働きやすい職場環境づくりと支援の質向上を両立

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>地域の関係機関との連携体制の構築と情報共有の強化</p> <p>事業所自己評価において、地域の関係機関との連携に関する複数の項目で課題が挙げられています。特に「地域の児童発達支援センターとの連携」（質問31）については「把握できていない」と回答されており、「就学時の移行における小学校等との情報共有」（質問27）では「ご家族からお話を伺うことはあるが、学校との直接的な情報共有が課題」との認識が示されています。また、保護者アンケートの質問11「保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会」について「わからない」との回答があり、地域連携に関する取り組みが保護者様に十分に伝わっていない状況もあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の児童発達支援センターとの連携窓口や協力体制が構築されておらず、スーパーバイズや助言を受ける機会が設けられていない ・就学時の移行支援において、保護者経由での情報把握にとどまり、小学校や特別支援学校との直接的な情報共有の仕組みが整備されていない ・併行利用や移行支援における保育所、幼稚園、認定こども園等との情報共有と相互理解の体制が不十分 ・地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関との連携体制が受け身的で、積極的なネットワーク構築ができていない ・公園での外活動時の偶発的な交流はあるものの、組織的・計画的な地域交流の機会が限られている ・児童発達支援の小規模な療育環境を重視するあまり、地域との交流や社会参加の機会創出が十分に検討されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の児童発達支援センターとの連携窓口を開設し、定期的な情報交換や事例検討、スーパーバイズを受ける機会を設定 ・就学を控えたお子様について、保護者の同意を得たうえで、就学先の小学校や特別支援学校と事前に情報共有を行う仕組みを構築(就学時移行支援シートの活用等) ・併行利用している保育所、幼稚園、認定こども園等との定期的な情報交換の機会を設け、支援内容の共有と相互理解を深める体制を整備 ・地域の保健センター、医療機関、相談支援事業所等との連携を強化し、多職種による包括的な支援体制を構築 ・お子様の発達段階やニーズに応じて、地域の子育て支援センターや図書館等の公共施設を活用した社会参加の機会を計画的に創出 ・地域交流の取り組み(公園での活動、ゆめはびフェスへの参加等)について、保護者様への情報提供を強化し、事業所の地域連携の姿勢を分かりやすく発信 ・関係機関との連携に関するマニュアルを作成し、職員間で連携の重要性や具体的な手順を共有
2	<p>環境整備における個別ニーズへの対応と清潔保持の徹底</p> <p>事業所自己評価において、環境整備に関する2つの具体的な課題が挙げられています。1つ目は「昼食を食べる際、1人用のスペースが必要な利用者がいるが、より食べるスペースと感じてもらえる空間が必要」（質問1）との指摘です。2つ目は「時々水道が汚れている(利用者が使用する部分のため改善必要)」（質問4）という清潔保持に関する課題です。児童発達支援においては、食事場面の安心感や衛生環境が、お子様の健康と発達に直接影響するため、これらの課題への早急な対応が必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、机がある部屋とマット等を置いて身体を動かす部屋を分けているが、食事専用のスペース設定が不十分で、お子様が「食べるスペース」として認識しにくい環境になっている ・1人用の食事スペースが必要なお子様に対して、物理的な環境設定(パーテーション、専用テーブル等)や視覚的な構造化が不十分でない ・水道の清潔保持について、利用者が使用する部分の清掃チェック体制や清掃頻度が不十分 ・職員間での清掃に関する役割分担や確認体制が明確でない、または徹底されていない可能性 ・お子様が水道を使用した後の汚れに対する即時対応や、定期的な清掃のルーティンが確立されていない ・環境整備に関する定期的なチェックリストや点検の仕組みが整備されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事スペースの環境整備を優先的に実施し、パーテーションや専用テーブルの設置、絵カードや色分け等の視覚的支援を用いて、お子様が「ここで食べる」と明確に認識できる空間を整備 ・1人用の食事スペースが必要なお子様の感覚特性や行動特性を詳細にアセスメントし、落ち着いて食事ができる環境(照明、音、視覚的刺激の調整等)を個別に設定 ・水道の清掃について、使用後の即時清掃ルールを設定し、職員間で徹底(例:お子様の手洗いは職員が必ず確認・清掃) ・毎日の清掃チェックリストを作成し、水道を含む利用者使用部分の清潔状態を定期的に確認・記録する仕組みを導入 ・朝礼・終礼で環境整備の状況を共有し、気づいた汚れや改善点をすぐに報告・対応できる体制を強化 ・定期的な環境整備会議を開催し、お子様や保護者様のニーズに応じた環境改善を継続的に検討 ・清潔で心地よい環境づくりを職員全員で意識し、お子様の健康と快適性を第一に考えた環境管理を徹底
3	<p>家族支援プログラムの体系的な実施と医療情報の把握</p> <p>事業所自己評価において、「家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか」（質問34）について、「必要に応じて質問や相談があった際に対応している」との記載があり、体系的・計画的なプログラムとしては実施されていない状況が読み取れます。また、「食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか」（質問48）において、「アレルギーの把握はしているが、医師の指示書は把握していない」との課題が挙げられており、医療情報の適切な管理にも改善が必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムが年間計画に位置づけられておらず、保護者からの相談に応じる受け身的な対応にとどまっている ・家族支援に関する専門的な研修や情報提供の機会が計画的に設定されていない ・児童発達支援における家族支援の重要性は認識しているものの、小規模事業所のため人員や時間の確保が難しく、体系的なプログラム実施に至っていない ・食物アレルギーについて、保護者からの聞き取りによる把握にとどまり、医師の指示書の提出を依頼する仕組みが整備されていない ・医療情報(服薬、てんかん、アレルギー等)の管理方法や更新頻度についての統一的なルールが不十分 ・アレルギー対応における緊急時の対応手順や、医師の指示に基づいた具体的な対応方法の確認が不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレント・トレーニングや保護者向け勉強会を年間計画に組み込み、年2~3回程度の定期開催を目指す(テーマ例:発達を促す遊び、家庭での関わり方、感覚統合の理解等) ・保護者様のニーズ調査を実施し、求められている情報や学びたいテーマを把握したうえで、プログラム内容を企画 ・小規模事業所の特性を活かし、少人数でのワークショップや個別相談会等、保護者が参加しやすい形式を工夫 ・お便りやSNS等で、家庭でも実践できる具体的な子育て支援情報を定期的に発信 ・食物アレルギーのあるお子様については、契約時および年度初めに必ず医師の診断書・指示書の提出を依頼し、書面に基づいた対応を徹底 ・医療情報管理シートを整備し、服薬、予防接種、てんかん発作、食物アレルギー等の情報を一元管理し、定期的に更新・確認する仕組みを構築 ・アレルギー対応マニュアルを作成し、緊急時の対応手順(工ピベン使用方法、救急搬送の判断基準等)を職員間で共有・訓練 ・保護者会や運動会、ダンス発表会等の機会を活用し、保護者同士の交流だけでなく、ミニ勉強会や情報交換の時間も設けることを検討

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

事業所名 ゆめの園みらいず大宮 児童発達支援・放課後等デイサービス

公表日 2026/2/25

利用児童数

3人

回収数

1人

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	1				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1				
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。				1	現在、児童発達支援の特性上、小規模な療育環境での支援を中心としているため、保育所や幼稚園等との定期的な交流機会は限られております。今後、地域との交流や社会参加の機会について、お子様の発達段階やニーズに応じて検討してまいります。また、実施している活動については保護者様への情報提供を強化し、事業所の取り組みをより分かりやすくお伝えしてまいります。
保 護 者 へ	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1				
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1				
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	1				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1				

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1				
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1				
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1				
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	1				

公表	事業所における自己評価結果（児童発達支援）
----	-----------------------

事業所名	ゆめの園みらいず大宮 児童発達支援・放課後等デイサービス				公表日	2026/2/25
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・机がある部屋とマット等を置いて身体を動かす部屋を分けている ・ゆっくり休みたい利用者や身体を動かしたい利用者それぞれの希望を満たすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食を食べる際、1人用のスペースが必要な利用者がいるが、より食べるスペースと感じてもらえる空間が必要
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・シフト表で配置を見える化している 	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレで男女の絵カードや色で区別 ・時計はデジタルとアナログで記載 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・静の部屋、動の部屋で区別されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・時々水道が汚れている(利用者が使用する部分のため改善必要)
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・気分が高まってしまい他の利用者や職員に手が出てしまう方や宿題をしている方などが必要に応じて相談室を使用できる ・相談室の部屋を個別で提供している 	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	0		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	0		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・その日のフロアリーダーを中心に活動の内容を考え、準備することができる ・活動案を職員全員が毎月出している 	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0		・朝礼にて職員間で情報を共有している
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0		・終礼にて職員間で情報を共有し記録に残している
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1		・ご家族からお話を伺うことはある(学校との直接的な情報共有が課題)
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	3		・把握できていない
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	2		・公園へ行き外活動を行う際にその公園で遊んでいた他のこどもと交流することができた
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1		・必要に応じて質問や相談があった際に対応している	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	0	・保護者を招いた運動会のプログラムやダンス発表の機会がある	・運動会やダンス発表会で家族同士が関わる機会は設けているが、回数は少ないため、必要な場合は回数を増やしてもいい
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	0	・地域の方を招いたゆめはびフェスの開催の取り組みがある	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0		・アレルギーの把握はしているが、医師の指示書は把握していない
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	0			